

茶生産者用クラウドサービスによる新たな付加価値の提供

会社名 カワサキ機工株式会社
 所在地 静岡県掛川市伊達方滑川810-1
 従業員 258名
 資本金 1億円
 売上高 5,499百万円
 業種 製茶プラント、茶園管理機、食品機械(殺菌機・乾燥機・水分計等)、分析、支援ツールの提案・開発・製造・販売



支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 専門家の助言を受けつつ競合環境に適応した知財戦略となるように、1)ビジネスモデル整理を通じて「知財面」と「事業面」からギャップを捉え、2)対処方針に基づくアクションプランの策定・実施、のサイクルを確立したい。

支援を受けてできるようになったこと

After

- クラウドサービスにより茶農家の収益性向上を図るための付加価値提案というプラットフォームビジネスの具体化が進んだ。
- 開発テーマに即した知財のウォッチや創出、クリアランス等の知財戦略と開発戦略の連携について学び、開発ロードマップとそれに基づく知財戦略をブラッシュアップ。

今後の事業展開の展望

Future

- 2022年度、乗用型茶園管理機のうちスマート農業に対応したシリーズの売り上げを20%以上に伸ばす。
- カワサキスマートコネクットの知財戦略・販売戦略をの検討を進め顧客への提供を開始する。
- カワサキスマートコネクットの進化を図り、トレーサビリティの実現、最適な製茶方法の提供等データを活用した事業戦略を進める。

重点支援を受けた事業や商材

茶園作業の記録を茶園で登録でき、
茶園毎に正確・簡単・忘れず・細かく記録できます。

刈高さデータ

散布量データ

カワサキスマートコネクットの摘採機や防除機で茶園作業を
をすると作業内容が自動でクラウドに保存されます。

摘採機	防除機
作業開始日時	作業開始日時
作業終了日時	作業終了日時
GPS情報	GPS情報
刈高さ	散布量
作業情報 (摘採、移動等)	作業情報 (散布、給水、移動等)

カワサキスマートコネクット
 外部ベンダーの農業支援クラウドサービスを介して、カワサキ機工製の茶園管理機と茶工場生産管理システム「データキーパー」を連携させクラウドサーバーで一括管理するサービスであり、茶生産者が行なった作業や製品に関するデータを、迅速、正確に収集し、管理することで、従来とは次元が異なる効率化を果たす。

【出典】カワサキ機工ホームページ
<https://www.kawasaki-kiko.co.jp/>

重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
ビジネスモデルの整理	競合他社・新規参入社(想定)への、特に開発・知財化の観点で対応が必要である。加えて、知財管理等コストの更なる合理化・適正化を図る必要。
ビジネスモデル整理を通じた「知財面」と「事業面」からのギャップ分析のための支援	事業戦略との整合性を図り、中核事業・新規事業それぞれにおいて「競合他社」「新規参入社」と「自社」を相対的に捉えた知財戦略や契約(顧客・パートナー)に関する実施機能を高めていく必要。
開発から知財管理・活用(警告等含む)のルール整備、及び、知財戦略のブラッシュアップのための支援	個別技術・特許の動向把握が必要である。また、開発成果の評価ルールの明確化、保有知財に対する「選択と集中」による整理検討が必要である。開発ロードマップ策定が必要。
知財教育、知財体制の整備、及び、知財マネジメント体制強化のための支援	知財面と事業面とのギャップを生じさせないためには幹部・社員の知財意識のさらなる啓発と知財マネジメント体制づくりが必要。
ブランディング&マーケティング強化のための支援	情報発信の精緻化と技術ブランド化のための検討が必要。また、今後茶葉のブランド力向上のためにはトレーサビリティの取得が必要。



重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと

支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
ビジネスモデルの整理	<ul style="list-style-type: none"> カワサキスマートシステムを中核に据えた、製茶工場の加工キャパシティを起点に、茶農家の収益性向上を図るための付加価値提案というプラットフォームビジネスへの取り組みの具体化が進んだ。 	中小企業診断士
ビジネスモデル整理を通じた「知財面」と「事業面」からのギャップ分析のための支援	<ul style="list-style-type: none"> INPIT特許情報分析活用事業の報告データなどを用いて茶園管理から製茶・販売までを支援するシステムの機能構成における従来技術との差分出し、及び、クリアランス確認を資料としてとりまとめ。 	弁理士、中小企業診断士
開発から知財管理・活用(警告等含む)のルール整備、及び、知財戦略のブラッシュアップのための支援	<ul style="list-style-type: none"> 事業面ではシェアNo1であるがゆえに、同業他社の動き、特に知財的な動きに対して敏感さが不足しがちであることへの気付き。農業機械業界全体としての技術レベルの把握。 プラットフォームビジネスという取り組みにおいて開発ロードマップの策定、新規な特許出願等知財戦略見直しを実施。 	弁理士
知財教育、知財体制の整備、及び、知財マネジメント体制強化のための支援	<ul style="list-style-type: none"> 開発が終了してからのサポートのみならず、上流工程からのアプローチすることについて見直し。 属人的なものから仕組みとして位置付ける契機になった。また、事業 開発 知財 リンクさせることの重要性を再認識できた。 	弁理士、中小企業診断士
ブランディング&マーケティング強化のための支援	<ul style="list-style-type: none"> ブランド管理、また、インターナルブランディングについてその必要性の理解が進んだ。 	中小企業診断士

支援チーム紹介

リーダー専門家:弁理士 藤掛宗則

活用専門家:中小企業診断士、弁理士、ブランド専門家

知財総合支援窓口担当者:静岡県知財総合支援窓口 宮枝清美

PO(プログラムオフィサー):塩谷良知